

**製品名: PC-PLD2 (リン酸化Tyr169) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05221**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,IHC,ICC/IF,ELISA                                |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | リン酸化   |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |  |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量  | 95kDa  |

**抗原情報**

|              |  |
|--------------|--|
| 遺伝子名         | PLD2   |
| 別名           | PLD2; Phospholipase D2; PLD 2; hPLD2; Choline phosphatase 2; PLD1C; Phosphatidylcholine-hydrolyzing phospholipase D2 |
| 遺伝子 ID       | 5338.0   |
| SwissProt ID | O14939   |
| 免疫原          | 抗血清は、ヒト PLD2 の Tyr169 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 136-185   |

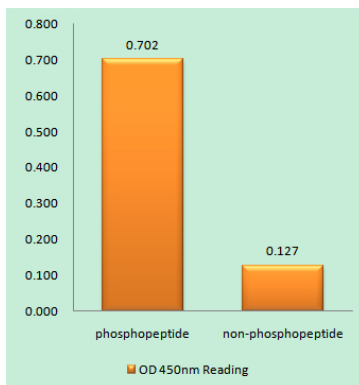
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ホスファチジルコリンをホスファチジン酸とコリンに加水分解する反応を触媒する。この酵素の活性は、ホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸および ADP-リボシル化因子-1 によって増強される。このタンパク質は細胞膜の表層に局在し、細胞骨格の形成、細胞周期の制御、転写調節、および/または分泌調節に関与している可能性がある。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2011 年 7 月], 触媒活性:ホスファチジルコリン + H(2)O = コリン + ホスファチデート。、酵素調節:ホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸によって刺激され、ADP-リボシル化因子-1 (ARF-1) によって活性化されます。、機能:シグナル誘導性細胞骨格調節および/またはエンドサイトーシスに役割を果たす可能性があります。、オンライン情報:ホスホリパーゼ D エントリ、類似性:ホスホリパーゼ D ファミリーに属します。、類似性:1 つの PH ドメインを含みます。、類似性:1 つの PX (phox 相同) ドメインを含みます。、類似性:2 つの PLD ホスホジエステラーゼ ドメインを含みます。、サブユニット:EGFR と相互作用します (類似性による)。 PIP5K1A と相互作用します。、組織特異性:普遍的、

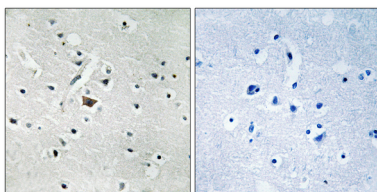
## 研究分野

グリセロリン脂質代謝;エーテル脂質代謝;エンドサイトーシス;Fc ガンマ R を介した貪食;GnRH;

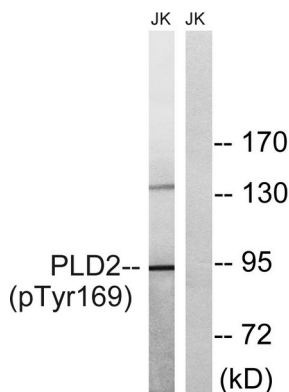
## 画像データ



PLD2 (リン酸化 Tyr169) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PLD2 (リン酸化 Tyr169) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF 20 ng/ml 30µg で処理した Jurkat 細胞のライセートを PLD2 (リン酸化 Tyr169) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。

